



未来をつくる子どもたちの豊かなところをはぐくみます！

# 道德のとびら

この度、義務教育課では、福島県内の小・中学校における道德教育についてお知らせするために、リーフレットを作成しました。

さあ、いっしょに道德のとびらを開いてみましょう。



ふくしまから  
はじめよう。

福島県教育委員会



# 未来をつくる子どもたちの豊かなころをばぐむために

## 第6次福島県総合教育計画の基本理念

“ふくしまの和”で奏でる、  
ころ豊かなたくましい人づくり

県では、教育理念の実現をめざして、ふくしまの子どもたちの教育に取り組んでいます。

平成23年3月、本県は、東日本震災・原子力災害により深刻な被害を受けた。あのような未曾有の大災害の中にあっても、秩序や礼節を失わず冷静に行動する人々の姿に、世界中から称賛の声が寄せられたことは、まだ私たちの記憶に新しいところです。

様々な方々から援助をいただいたり、互いに支え合い助け合いながら困難や喜びを分かち合ったりする中で、私たちは、たくさんのあたたかいころに触れ、改めてこのころの豊かさの重要性を実感しました。

平成27年3月に学習指導要領の一部が改正され、これまでの「道徳の時間」が、小学校では平成30年から、中学校では平成31年から、「特別の教科道徳」（道徳科）となり、教科として位置付けられます。

道徳教育は、これまでも、また、これからも、ころ豊かな人づくりの要になるものです。今期より発行する道徳教育リーフレットでは、今、学校ではどのような道徳教育が行われているのか、今後「道徳の時間」が教科になることで、何かどのように変わるのかなどをお伝えしていきます。

未来をつくる子どもたちの豊かなころをばぐむために、学校を中心に、家庭や地域のみならず協力していきたいと考えています。

## ふくしま道徳教育推進プラン 道徳教育推進校

県内7つの小・中・高等学校を道徳教育推進校とし、地域に根ざした道徳教育を進めています。これら7校は、各地区の拠点校となって、授業の研究公開や先生方の研修、講演会などを行っています。

- （県北地区）福島市立北信中学校（県中地区）須賀川市立第三小学校
- （県南地区）鮫川村立鮫川小学校（会津地区）福島県立大沼高等学校
- （南会津地区）只見町立只見小学校（相双地区）相馬市立中村第一中学校
- （いわき地区）いわき市立小川中学校

「道徳教育推進教師」は、各学校の全ての教師が協力して道徳教育を進めていく上で、中心的な役割を担っています。

## 〈道徳教育がめざすもの〉

よりよく生きるための基盤  
となる道徳性を養う



各学校では、「道徳教育推進教師」を中心に、さまざまな取組が行われています。また、道徳の時間は、主として学級担任の先生が行いますが、校長先生や外部から招いたゲストティーチャーが参加することもあります。そこで、今回は、道徳教育推進教師と校長先生の実践を紹介します。

## 糸を紡ぐ



須賀川市立第三小学校 道徳教育推進教師 伊東 伸也  
大病の後遺症で身体にハンディキャップを持つ私にとって、糸を使う裁縫は最も苦手なことの一つですが、4月に着任し、道徳教育推進教師の任をいただいた私が取り組んだことは、まさに、学校の教育活動というそれぞれの糸を紡いでいくことでした。

まず、教育計画を熟読し、年間の学校の動き、本校の特色の理解に努めました。すると、「須賀川モデル」として実践を重ねている小中一貫教育（花王スクール）や東洋一を誇る牡丹園をベースにした各種活動など、様々な学習活動が見えてきました。そこで改めて、道徳教育という糸と、教科を含めた様々な学習活動という糸を紡いでいくことは、すなわち、それぞれの先生方が「道徳」を通じて結び付けていくことだと感じました。

こうして一人一人の先生方の貴重な経験値や実践を生かしたマンパワーに裏打ちされ、本校の教育計画がさらに進化・充実したことは、大きな財産になったと思います。

糸を紡ぐお手伝いか私の役割だったのではないかと考えているところでです。



## 全校集会における校長講話の実践 ～校長の道徳授業として～



田村市立栗田小学校 校長 大河原久宗  
校長として、子どもたちの前で話をする機会はたくさんあります。入学式や学習発表会などの学校の諸行事での挨拶や話は目的が明らかですが、全校集会での校長講話は月に1回で基本的にはテーマも方法も自由に考えることができま

す。そこで、私は、全校集会での校長講話を「校長の道徳授業」の大切な機会とらえ、「子どもたちの心に届き、心に残り、実践につながるように伝えたい」と実践してきました。小学校は、年齢に幅があり、個々の理解力にも話を聴く集中力にも差があります。そこで、次の4点を工夫しました。①講話の工夫：パワーポイントによる資料提示と資料配付 ②事後掲示の工夫：資料を校長室前に掲示 ③感想用紙の準備：A4 1枚の感想用紙を準備し、感じたことや考えたことを素直に表現 ④家庭への働きかけ：学校よりを作成し、家庭へも話題提供（今後）

最後の道徳授業は「卒業式」を考えています。平成27年度の実践を紹介します。  
○4月：「はじめの一歩」（星野富弘） ○5月：「ありがとう」（本田美奈子）  
○7月：「いのち・生きる」（東日本大震災） ○9月：「天国からの年賀状」（敬老の日）  
○11月：「正義」（アンパンマン）

家庭や地域社会等との連携を図りながら開かれた道徳教育を推進するために、授業参観等で積極的に道徳の授業を公開することを推進しています。



# 「道徳の時間」の充実に向けて

「道徳の時間」には、様々な教材が使われています。読み物としては、文部科学省発行の「私たちの道徳」、福島県教育委員会発行の「ふくしま道徳教育資料集」が、県内全域で活用されています。

「ふくしま道徳教育資料集第Ⅰ集～第Ⅲ集」は、平成24年から3か年かけて作成されました。この資料集は、道徳の教材としてだけでなく、震災後の本県の実情を伝える資料としても活用できる内容になっています。\*福島県教育庁義務教育課のホームページからダウンロードすることもできますので、ぜひご覧ください。



「私たちの道徳」



「ふくしま道徳教育資料集」

## 「外国からのメッセージ」

2011年3月11日、日本列島を大きな地震がおそった。

わたしたちの町では、こわれた家はあったが、幸いなくなった人はいなかった。しかし、水道がこわれたり、食べ物も買えなかったり、しばらくつらい時期が続いた。

そんなある日、わたしはインターネットであの写真を見た。それは、外国の子どもたちが、日本のためにいのりをささげている写真だった。

「わたしたちは、あなたたちと共にいます。」

「日本の深い悲しみを、わたしたちも分かち合います。」

英語でそう書かれていると知って、自然になみだがあふれた。

「ぼくらも一年前、同じように大きな地震におそわれました。そのときから、これまで強く支えてくれたのは日本人でした。チリは日本に感謝しています。」

「台湾で大きな地震があったとき、日本が一番早く、最も多くの救援隊を送ってくれました。本当に感謝しています。今こそわたしたちが恩返しをする時です。日本、がんばれ。」

たくさんの国から、多くの人々のはげましがインターネットにあふれていた。世界中の人たちが、日本を、わたしたちを応援してくれていたのだ。

しばらくして、わたしはこんな新聞記事も見つけた。

東日本大震災について、中国のメディアは、「日本国民の『落ち着いた行動』が、中国全土に強い感動をあたえている。日本人は、なぜこんなに冷静でいることができるのか。」と報じているという内容だ。

また、他紙では、「日本人の冷静さが、世界に感がいをおとしている。」「東京では、数百人が広場にひなんしたが、男性は女性を助け、街にはゴミ一つ落ちていなかった。」と紹介していた。

中国のテレビが、被災地に中国語の案内があることを取り上げて、「自分たちがこんなに大変なときなのに、外国人にも配りよをわすれない日本人に、とてもおどろいています。」と紹介した。その報道を見た北京市の女性は、「すばらしい。日本人の中には『道徳』の血が流れているのだと思う。」と日本の新聞に語ったそうだ。

わたしは、『道徳』の血』と言われたことに「はっ」とした。

確かに、被害がひどい中、日本人は落ち着いて行動していた。テレビでも、家に帰れなくなってしまった被災者たちが、整列して笑顔で「ありがとう。」と言って、順番にご飯を受け取っている様子を伝えていた。

自分も被災しているにもかかわらず、がれきのかたづけの手伝いをしている人もいれば、ひなん所でおにぎりをにぎっている人もいた。家族が津波でなくなったのに、行方不明の人を心配している人もいた。

しかし、それらは、外国の人から見れば、おどろくことなのだ。

あの震災から、一年半が過ぎた。

その間に、ひなんして人がなくなった家にどろぼうが入ったというニュースを聞いた。原子力発電所が爆発した後、福島県の人たちに対して、心ない言葉をあびせる人たちがいたことも知った。

「日本人の中には『道徳』という血が流れている」とほめてもらったが、果たして本当なのだろうか。次々と流れてくるニュースに、わたしは、日本はどうなってしまうのだろうかと考え込んでしまった。

「ふくしま道徳教育資料集 第Ⅰ集」より